

令和

6

年度

25 の講座

10 の実習

発達障害
精神障害
医療的ケア
難病

高次脳機能障害
支援者のセルフケア
など

移乗
集団体操
個別運動
ベッド上移動
起き上がり
リフトの使い方

京都市
地域リハビリテーション
推進研修
セッション



京都市
CITY OF KYOTO

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



（センターホームページ）

講座プログラム（会場＋オンライン）

ハイブリッドでの
研修です！

	日 程	時 間	テーマ 講師
1	7月1日(月)	9:30～11:30	教えて！発達障害の基礎知識 京都市発達障害者支援センター かがやき センター長 京都市児童福祉センター 児童精神科医師 村松 陽子
2	7月26日(金)	13:30～15:00	必見！フレイル・サルコペニアを予防するために ～高齢者の特性に合わせたトレーニングの実際～ ● 関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 理学療法士 池添 冬芽 氏
3	7月30日(火)	9:30～11:00	すぐに役立つストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～ 龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授 松田 美智子 氏
4	8月7日(水)	15:00～17:00	嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～ ★ 安東医院 院長 精神科医 安東 毅 氏
5	8月13日(火)	14:00～17:00	統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～ ★ 第二北山病院 精神科医 並河 東明 氏
6	9月9日(月)	9:30～11:30	あたし研究 ～自閉スペクトラム症のあたしからみた世界～ ♥ 社会福祉法人ライフサポート協会 小道 モコ 氏
7	9月12日(木)	14:00～15:30	ホームドクターから学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実際 ● みずのや医院 院長 認知症サポート医 水谷 正太 氏
8	9月19日(木)	13:30～15:00	チームで取り組む在宅支援 ～難病の方が住み慣れた地域で暮らすには～ 大阪大学大学院医学系研究科 地域ヘルスケアシステム科学研究室 教授 小西 かおる 氏
9	9月25日(水)	13:30～15:30	発達障害の子どもたちの脳と体を育む遊び ブレイジム 代表 作業療法士 太田 篤志 氏
10	10月10日(木)	14:00～17:00	精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ ★ 公益社団法人 豊郷病院 精神科医 波床 将材 氏
11	10月17日(木)	9:30～11:30	発達障害と家族支援 ～当事者・保護者・支援者の視点から～ 精神保健福祉士 社会福祉士 神戸市発達障害ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏
12	10月18日(金)	13:30～16:30	ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～ ★ 鳥取県立精神保健福祉センター 所長 精神科医 原田 豊 氏
13	10月24日(木)	13:30～15:30	脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season3 ◆ 足利赤十字病院 神経精神科部長 精神科医 船山 道隆 氏 京都光華女子大学 健康科学部医療福祉学科 言語聴覚専攻 教授 精神科医 上田 敬太 氏
14	11月1日(金)	13:30～15:00	障害福祉サービスと介護保険サービス ～両制度の移行、併用や多職種連携～ ● 京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」 副所長 中村 嘉男 氏
15	11月7日(木)	13:30～15:30	医療的ケア児の就学支援を考える ～切れ目のない支援を目指して～ NPO法人 i-care kids京都 代表理事 藤井 路 氏 京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業 「TOMOT(ともと)」コーディネーター 松井 裕美子 氏
16	11月12日(火)	9:30～11:30	大人の発達障害の方の理解と支援 京都市発達障害者支援センター かがやき 主任 公認心理師 臨床発達心理士 上久保 美和子 氏
17	11月19日(火)	10:00～11:30	医療的ケア児の理解と支援の実際 ～防災の視点もふまえて～ 京都の医療的ケアを考える会 KICK 副会長 辻 真一 氏

	日 程	時 間	テーマ 講師
18	11月27日(水)	15:30～17:00	ケースから考える！ 高次脳機能障害のある子の学校や日常生活での困り感 ◆ 大阪市立総合医療センター 小児言語科・小児脳神経内科 医長 温井 めぐみ 氏
19	11月28日(木)	9:30～11:30	発達障害の子の会話を楽しく！ 育てるために必要なこと ～子どもの好きを大切に～ 東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大学院) 教授 藤野 博 氏
20	12月10日(火)	13:30～16:30	気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～ ★ 京都市こころの健康増進センター 相談援助課 担当係長 精神科医 小林 祐子

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は90名(会場40名、オンライン50名)です

★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催

●印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催

◆印は「京都市高次脳機能障害者支援センター」との共催

♥印は「京都市発達障害支援センターかがやき」との共催

講座プログラム（会場のみ）

会場のみの実施です！
(オンラインでは実施しません。)

	3日 程	時 間	テーマ 講師
21	8月5日(月)	9:30～11:30	在宅生活を支える栄養管理 ～栄養アセスメントやとろみ剤の調整を体験しよう～ ● 大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授 滋賀県立総合病院 管理栄養士 高嶋 典子 氏
22	9月4日(水)	13:30～15:30	福祉用具の選定と適切な支援のポイント ● 住まいと介護研究所 所長 理学療法士 主任介護支援専門員 谷口 昌宏 氏
※ 23	10月8日(火)	13:30～16:30	生活に役立つポジショニングと姿勢ケアの基本 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部 人材研修センター 研修担当部長 理学療法士 神内 昭次 氏
24	10月15日(火)	13:30～15:30	腰痛予防の正しい知識と対応方法について 一般社団法人働く人の健康と安全を守る会 理学療法士 高野 賢一郎 氏
25	10月23日(水)	13:30～15:30	すぐに活かせる高齢者のための摂食・嚥下機能支援 ～体験をとおして学びます～ ● 京都リハビリテーション病院 言語聴覚士 徳島 大樹 氏

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は40名です。

※ 23の講座は、会場設定の都合により、定員は24名です。

実習プログラム

ご希望の場所まで
出講もします！
定員6名。

講師は、当センターの理学療法士、作業療法士です。

	日 程	時 間	テーマ
1	7月4日(木)	9:30~11:00	現場で役立つ！ 介助法「移乗編」
2	7月9日(火)	9:30~11:00	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
3	7月11日(木)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
4	7月18日(木)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」
※ 5	7月23日(火)	9:30~12:00	現場に活かす！ 「介助用リフトの正しい使い方」
6	令和7年 1月8日(水)	9:30~11:00	現場で役立つ！ 介助法「移乗編」
7	令和7年 1月15日(水)	9:30~11:00	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
※ 8	令和7年 1月17日(金)	9:30~12:00	現場に活かす！ 「介助用リフトの正しい使い方」
9	令和7年 1月22日(水)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
10	令和7年 1月24日(金)	9:30~11:00	現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

※ 会場は、「COCO・てらす 4階 研修室1」で、定員は6名です。

※ 5、8の実習の会場は「COCO・てらす 4階 ADL室」です。

※ 実習には、当センターで実施する上記「会場型」のほかに、ご準備いただいた会場に出向く「出講型」があります。

※ 「出講型」の内容は、「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。

講座の詳細(会場とオンライン)

1. 教えて！発達障害の基礎知識

7月1日(月) 9:30～11:30

講師：村松 陽子

京都市発達障害者支援センター かがやき センター長
京都市児童福祉センター 児童精神科医師

本講座では、発達障害についての基本的な知識を整理し、正しく理解を深めます。発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。発達障害のある方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすればよいのか、特性に合わせた関わり方の工夫や日常の具体的な支援について事例を通してお話しいたします。

※ 9月25日、10月17日、11月12日、11月28日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられること前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

2. 必見！フレイル・サルコペニアを予防するために ～高齢者の特性に合わせたトレーニングの実際～

7月26日(金) 13:30～15:00

講師：池添 冬芽 氏

関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
教授 理学療法士

介護予防事業や事業所等では、コロナ禍での活動性低下や加齢による機能低下のため、筋力トレーニングについての対応が高まる一方で、高齢者の特徴（筋や関節の状態など）に基づいたトレーニングの具体的な内容や、指導方法に苦慮される場面も多いようです。

本講座では、高齢者の特徴、運動に際しての注意点、工夫などについて理解を深めるとともに、フレイル・サルコペニア予防のための効果的なトレーニング方法について紹介していただきます。

3. すぐに役立つストレスマネジメント ～働きやすい職場づくりのために～

7月30日(火) 9:30～11:00

講師：松田 美智子 氏

龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科 教授

福祉・介護の対人援助職は、「頭脳労働」「肉体労働」に加え、自身の気持ちを抑えながら利用者をケアする「感情労働」という要素が大きいため、メンタル面での不調を抱えやすい職種と言われています。

本講座では、働きやすい職場づくりや、よりよい援助の提供に活用いただくために、福祉職が抱えやすいストレスとその対処法について詳しく学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

4. 嗜癖(しへき)と依存 ～さまざまな依存症治療へのプロセス～

8月7日(水) 15:00～17:00

講師：安東 毅 氏
安東医院 院長 精神科医

依存症は、飲酒や薬物使用などのコントロールが出来なくなる「病気」であり、きちんとした治療を受けることで回復が可能です。しかし、本人が、病気であることを認めないことが多く、また、周囲の人も「本人の性格の問題」、「本人の意思が弱い」などと考えて、本人を責めることになりがちなため、治療につながりにくいケースも少なくありません。

本講座では、アルコール・ギャンブル・薬物依存症について正しく理解し、治療に結びつけていくために、医療機関との連携や、本人・家族の支援について学び、事例を通して理解を深めます。

5. 統合失調症の理解と支援 ～治療をしながら社会参加や自立をめざすために～

8月13日(火) 14:00～17:00

講師：並河 東明 氏
第二北山病院 精神科医

統合失調症は、約100人に1人がかかる身近な疾患です。適切な治療やリハビリテーションの継続により、病気とつきあいながら就労されている方や、安定した生活を送っておられる方もたくさんおられます。一方で、再発しやすいため、症状が落ち着いていても治療を継続していくことが重要です。

本講座では、基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例を交えてお話していただきます。

6. あたし研究 ～自閉スペクトラム症のあたしからみた世界～

9月9日(月) 9:30～11:30

講師：小道 モコ 氏
社会福祉法人ライフサポート協会

「毎日が冒険だった幼少期、学校はまるでジャングルのように…」

自閉スペクトラム症の当事者として感じていた世界とは…

講師は、自閉スペクトラム症の当事者が「ありのままにその人らしく生きられる」社会を願って、今も「あたし研究」を続けられています。

本講座では、自閉スペクトラム症を含む発達障害の特性や対応について、これまで経験されたエピソードを通してお話していただき、発達障害について理解を深めます。

講座の詳細(会場とオンライン)

7. ホームドクターから学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実際

9月12日(木) 14:00～15:30

講師：水谷 正太 氏

みずのや医院 院長 認知症サポート医

2025年には、全国で約700万人（65歳以上の高齢者の約20%）が認知症を有すると予測されています。その後も高齢化が進むにつれ、認知症の方が増えていくことが予想されており、誰でもなりうることから、認知症への理解を深め、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる「共生」の社会を創っていくことが重要です。

本講座では、認知症の中核症状や周辺症状について理解を深めるとともに、認知症当事者や家族に寄り添うホームドクターとして地域医療に従事する医師から、支援の実際について学びます。

※ 共生：認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味。

8. チームで取り組む在宅支援 ～難病の方が住み慣れた地域で暮らすには～

9月19日(木) 13:30～15:00

講師：小西 かおる 氏

大阪大学大学院医学系研究科

地域ヘルスケアシステム科学研究室 教授

難病の方の治療と暮らしを支えるには、医療だけでなく、介護や福祉を含めた包括的な支援体制が求められ、多職種の連携は欠かせません。多様なニーズを持つ難病の方が住み慣れた地域で生活するにはどのような支援が必要なのでしょう。地域で暮らす難病の方とその支援者を取り巻く環境や、現状の課題について考えます。

9. 発達障害の子どもの脳と体を育む遊び

9月25日(水) 13:30～15:30

講師：太田 篤志 氏

プレイジム 代表 作業療法士

きちんと座ってられない、気が散りやすい、食べこぼしが多い、遊びが続かないなど、そんな子どもが増えています。そうした子どもたちの行動は、大人にとって「ちょっと困った行動」となってしまいますが、私たち支援者は、子どもの立場で「困り感」を受けとめ、子どもの立場で支援してあげることが大切です。

本講座では、子どもの困り感を「感覚統合」の視点で理解し、子ども自身が楽しみながら「感覚統合」を育むことができる簡単な遊びを中心に、普段の生活の中でできる具体的な支援方法や実際の療育での事例を通してお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

10. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～

10月10日(木) 14:00～17:00

講師：波床 将材 氏
公益社団法人 豊郷病院 精神科医

精神障害のある方は、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多いことから、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要になります。

本講座では、薬の効果や副作用、服薬が難しくなる原因など、薬物療法の基本的な知識について、最近の情報も併せてお話していただきます。

11. 発達障害と家族支援 ～当事者・保護者・支援者の視点から～

10月17日(木) 9:30～11:30

講師：笹森 理絵 氏
精神保健福祉士 社会福祉士
神戸市発達障害ピアカウンセラー

発達障害のある子どもを持つ保護者は、日々戸惑いと不安を感じながら子育てをしています。保護者に対しても適切な支えがないと現実の我が子と向き合うことができないことがあります。

本講座では、当事者・保護者・支援者というさまざまな視点をお持ちの講師だからこそ分かる、発達障害のある子どもを持つ保護者の悩みへの寄り添い方や必要な環境、支援方法など、これまで実際に子育ての中で経験されたエピソードを通して、具体的にお話していただきます。

12. ひきこもりの理解と支援 ～人と人との関係性の再構築に向けて～

10月18日(金) 13:30～16:30

講師：原田 豊 氏
鳥取県立精神保健福祉センター 所長 精神科医

「ひきこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、その実態は多種多様です。一方で、適切な関係機関と連携し、ひきこもっている方それぞれの問題を整理することで、支援の糸口が見えてくることもあります。

本講座では、多様化している、ひきこもりの理解と支援のために必要な基礎知識と支援の実践について事例を通して学びます。

講座の詳細(会場とオンライン)

13. 脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! Season3

10月24日(木) 13:30～15:30

講師：船山 道隆 氏

足利赤十字病院 神経精神科部長 精神科医

講師：上田 敬太 氏

京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科

言語聴覚専攻 教授 精神科医

脳の機能不全の臨床に長年携わっておられるお二人の医師から、高次脳機能障害、発達障害、認知症それぞれの障害や症例について分かりやすくレクチャーしていただくとともに、事例を基にして、対談形式で現場に即した対応方法なども深めていただきます。

今回登壇いただく船山先生は、慶応義塾大学医学部付属病院を経て、足利赤十字病院に精神科専門医として勤務され、長年、高次脳機能障害、認知症、発達障害等多岐にわたる診療に携わっておられる、脳の障害のスペシャリストです。今回もさまざまな切り口から高次脳機能障害を考える機会にさせていただきます。

14. 障害福祉サービスと介護保険サービス ～両制度の移行、併用や多職種連携～

11月1日(金) 13:30～15:00

講師：中村 嘉男 氏

京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」
副所長

「自分が暮らしたい場所で、自分らしい生活」が実現できるよう、地域の関係機関と連携して、障害のある方や、その家族等の相談や支援を行っている、障害者地域生活支援センターの講師から、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や併用など、よりよい支援を行うための連携へのアドバイスや、事例を通じた支援の実際について、お話していただきます。

15. 医療的ケア児の就学支援を考える ～切れ目のない支援を目指して～

11月7日(木) 13:30～15:30

講師：藤井 路 氏

NPO法人 i-care kids京都 代表理事

講師：松井 裕美子 氏

京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業
「TOMOT（ともと）」コーディネーター

長年、医療的ケア児に関わっておられるお二人の講師から、地域で生活していく上で必要なことをそれぞれお話ししていただき、就学後の豊かな学びにつなげるために、私たち支援者ができることを、ともに考えます。

まずは、医療的ケア児を積極的に受け入れる小規模保育園のキコレでの就学支援について、保育園と学校や関係機関との連携、支援を通して見えてくる課題など、事例を交えながらお話していただきます。

続いて、昨年度に開始した「京都市医療的ケア児等地域支援コーディネート事業 TOMOT（ともと）」について、事業の内容や実際の活動などを紹介していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

16. 大人の発達障害の方の理解と支援

11月12日(火) 9:30～11:30

講師：上久保 美和子 氏

京都市発達障害者支援センターかがやき 主任
公認心理師 臨床発達心理士

大人になって発達障害と診断された方が、社会で直面するさまざまな問題とは何か。

自分を肯定し、一人ひとりの特性や能力をいかして生活するためにはどんな環境や支援が必要でしょうか。

本講座では、くらしや働き方の工夫を考えるポイントについて、経験豊富な講師から事例を通してお話していただきます。

17. 医療的ケア児の理解と支援の実際 ～防災の視点もふまえて～

11月19日(火) 10:00～11:30

講師：辻 真一 氏

京都の医療的ケアを考える会 KICK 副会長

医療的ケア児とその家族が地域で安心して暮らすために、支援者は何ができるのか、どう支援すればよいのか悩むことも多いと思います。本講座では医療的ケア児の家族会である、京都の医療的ケアを考える会 KICK所属の講師から、取り組みやその活動に込めた想いについてお話していただき、医療的ケア児とその家族の現状や心情について理解を深めます。

また、近年の防災への意識の高まりもふまえて、KICKで取り組まれている障害児・者の防災や災害福祉についてもお話していただきます。

18. ケースから考える！ 高次脳機能障害のある子の学校や日常生活での困り感

11月27日(水) 15:30～17:00

講師：温井 めぐみ 氏

大阪市立総合医療センター
小児言語科・小児脳神経内科 医長

子どもの高次脳機能障害は、復学後、生活の場となる学校や家庭で困りごとに直面することが多く、周囲の理解と支援が不可欠です。

この講座では、小児科医師の立場から、高次脳機能障害のある子の具体的な困りごとについて、発達障害との違いや、学校や地域の支援機関が押さえておくポイント、家族支援の視点を踏まえて、事例を通して、わかりやすくお話していただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

19. 発達障害の子の会話力を楽しく！ 育てるために必要なこと ～子どもの好きを大切に～

11月28日(木) 9:30～11:30

講師：藤野 博 氏

東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）教授

発達障害の子どもは、一方的なやりとりになったり、相手の気持ちが分かりにくいなどほかの子どもとは異なるユニークなコミュニケーションスタイルを持っています。そのことが会話のすれ違いにつながり、日々の現場でどのように支援していけばいいのか悩まれている方は多いのではないのでしょうか。

本講座では、発達障害の子どものコミュニケーションやソーシャルスキルに詳しい講師に、発達障害のある子どもの「好き」を大切に会話特性とその支援について、事例を通してお話していただきます。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

20. 気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～

12月10日(火) 13:30～16:30

講師：小林 祐子

京都市こころの健康増進センター 相談援助課
担当係長 精神科医

「気分障害」とは、うつ病や躁うつ病など、気分や感情に変化があるために生活に支障をきたしている精神疾患のことを指します。「うつ病」については、近年その概念に広がりが見られ、患者数が増加するとともに、状態像がきわめて多様化しています。一方、うつ状態と活力に溢れた状態を繰り返す「躁うつ病」と診断される方も同様に増加傾向にあり、身近な疾患となってきました。

本講座では、これら気分障害に関する基礎知識や、気分障害をお持ちの方への関わり方などについて、事例を交えてお話します。

講座の詳細(会場のみ)

21. 在宅生活を支える栄養管理 ～栄養アセスメントやとろみ剤の調整を体験しよう～

8月5日(月) 9:30～11:30

講師：高嶋 典子 氏

大阪夕陽丘学園短期大学 食物栄養学科 准教授
滋賀県立総合病院 管理栄養士

在宅生活を送る上で栄養管理が必要なケースは多く、本講座では、ケアマネジャーをはじめとする支援者に気にかけてほしい栄養管理について、栄養アセスメントの流れや事例を通じた支援の実際、栄養の視点からできる多職種に関わり等を交えてお話していただきます。

また、在宅で利用されることの多い、市販の嚥下調整食の紹介や試食、とろみ剤の調整方法についても体験していただき、食事についての理解を深めます。

※ 会場での受講のみの設定です。

22. 福祉用具の選定と適切な支援のポイント

9月4日(水) 13:30～15:30

講師：谷口 昌宏 氏

住まいと介護研究所 所長 理学療法士
主任介護支援専門員

福祉用具の適切な選定と使用は、利用する方の自立のサポートや支援者の介助量軽減、生活の質の向上につながります。本講座では、介護・医療・福祉の現場を熟知した経験豊富な講師に、福祉用具の選び方や適切な支援方法について、デモンストレーションを交えながら解説していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

23. 生活に役立つポジショニングと姿勢ケアの基本

10月8日(火) 13:30～16:30

講師：神内 昭次 氏

社会福祉法人 京都福祉サービス協会
人材マネジメント室 人事部
人材研修センター 研修担当部長 理学療法士

褥瘡や関節拘縮が生じるメカニズムから、それらを予防するための姿勢ケアの基本について解説していただきます。また、ベッド上で安楽な臥位姿勢を保つためのポジショニングと、そのバリエーションについて、実技を通して体験していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

※ 動きやすい服装でお越しください。

講座の詳細(会場のみ)

24. 腰痛予防の正しい知識と対応方法について

10月15日(火) 13:30～15:30

講師：高野 賢一郎 氏

一般社団法人働く人の健康と安全を守る会
理学療法士

障害福祉サービス事業所や介護事業所、支援学校、居宅等の現場では、腰痛を抱えながら日々の業務に取り組まれている支援者は多いと思います。「時間がないから」「一人しかいないから」つい頑張ってしまう、その結果、腰や脚に痛みやしびれが出たり、そのために仕事を休んだりした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこでこの講座では、産業理学療法という新しい分野でご活躍の講師から、腰痛予防の正しい知識とその対応方法について学ぶとともに、実際の介助方法や腰痛体操等について実技を交えて、お話していただきます。

※ 会場での受講のみの設定です。

※ 動きやすい服装でお越しください。

25. すぐに活かせる高齢者のための摂食・嚥下機能支援 ～体験をとおして学びます～

10月23日(水) 13:30～15:30

講師：徳島 大樹 氏

京都リハビリテーション病院 言語聴覚士

食べる、噛む、飲み込むといった口腔機能の低下は、オーラルフレイルと呼ばれ、身心機能の低下やフレイルの原因になりますが、適切な支援により改善や予防が可能です。

本講座では、生活期の支援に多く関わるリハビリテーション（言語聴覚士）の視点で、摂食・嚥下機能が低下した方への支援の実際について、事例を交えて分かりやすくお話していただきます。

また、摂食・嚥下機能の評価や訓練について、体験を通して学び、明日からの支援に活かせる内容となっています。

※ 会場での受講のみの設定です。

実習の詳細

<会場型>

講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場で役立つ！ 介助法「移乗編」

- ・7月4日(木) 9:30～11:00
- ・令和7年1月8日(水) 9:30～11:00

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

2. 現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

- ・7月9日(火) 9:30～11:00
- ・令和7年1月15日(水) 9:30～11:00

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

3. 現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」

- ・7月11日(木) 9:30～11:00
- ・令和7年1月22日(水) 9:30～11:00

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

4. 現場に活かす！ 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

- ・7月18日(木) 9:30～11:00
- ・令和7年1月24日(金) 9:30～11:00

障害のある方や高齢者が定期的に身体を動かすことの重要性と、日々の支援の中に取り入れることができる個別運動について学びます。

5. 現場に活かす！「介助用リフトの正しい使い方」

- ・7月23日(火) 9:30～12:00
- ・令和7年1月17日(金) 9:30～12:00

数種類のリフトやスリングシートの正しい使い方を、実技を通して学びます。
吊られる体験もできるので、利用者の気持ちも感じられます。

※当センターADL室で実施

<出講型>

内容は、<会場型>1～5と同じです。1～4は会場と以下の物品を準備してください。

※受付期間は、令和6年度末までです。

実習1：ベッド1台、車椅子2台

（ベッドと車椅子がない場合は、椅子4～6脚（肘掛なし）で代用可能）

実習2：ベッド1台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）

実習4：床に敷くマット（参加人数の半分の数：ペアになって実習を行います。）

実習1～4共通：椅子人数分（講義時に使用）

日程や会場の広さ、定員等については、お気軽にご相談ください。

実習5：リフトが用意できない場合のみ当センターで実施可能。

令和6年度 京都市地域リハビリテーション推進研修実施要領

1 目的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方で、原則当事者、家族は対象外です。

(1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員

ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援

イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援

ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター

(2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員

(3) 障害者の支援に関する業務に従事している本市職員

(4) 障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方

(5) 障害者雇用を進める企業に所属する方等

(6) その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修

検索



3 日程及び内容

プログラムを御参照ください。

(当センターのホームページでも御確認いただけます。)

(センターホームページ)

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（注：会場だけの講座があります。）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

※ 出講型「5リフトの実習」は、リフトが用意できない場合、当センターで実施可能

5 会場及び定員

プログラムを御参照ください。

6 受講料：無 料

(出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。)

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

* 申込受付後、メール等で申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、必ずお問い合わせください。

* 1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合にも、1名ずつ申込みが必要です。

講座（7月～9月開催分）申込フォーム 申込期間：令和6年6月3日～9月20日

: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=8185

講座（10月～12月開催分）申込フォーム 申込期間：令和6年9月2日～12月6日

: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=8186

実習（会場型）申込フォーム: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=8187

実習（出講型）申込フォーム: https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=8188

講座 (7月～9月) 申込フォーム		講座 (10月～12月) 申込フォーム		実習（会場型） 申込フォーム		実習（出講型） 申込フォーム	
-------------------------	--	---------------------------	--	-------------------	--	-------------------	--

8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。） 出講型の実習は、希望される日の1か月前までに申し込んでください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

9 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。
- (2) 会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (3) 会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。
- (4) 各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。
- (5) 講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoom アプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）
 - * 開催2日前を目途に、Zoom 視聴用 ID、講義資料等を、申込時に記載いただいたアドレスに送信します。申込時に受信確認をさせていただきます。
 - * セキュリティリスクを防ぐため、フリー Wi-Fi での接続は避けてください。
 - * インターネットへの接続環境や技術的な障害により、研修中に接続が切れる可能性があります。
 - * 当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。
- (6) その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。

- ・ 講義の録画、録音、撮影 ・ 資料の二次利用 ・ 講義の詳細内容の SNS 等への投稿
- ・ Zoom の ID 及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

10 当センターへのアクセス、問合せ先

市バス	西大路松原、市立病院前	バス停から徒歩4分
阪急電鉄	西院駅から徒歩10分	
京福電鉄	西院駅から徒歩10分	
JR	丹波口駅から徒歩15分	



発行 ・ 問合せ先	〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 COCO・てらす1階 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 TEL 075-925-7800 FAX 075-925-5920 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp （受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30～午後5：00） 令和6年5月発行 京都市印刷物 第063042号
-----------------	---